

令和5年度上大久保中学校だより

# 上中だより

## 第11号

令和6年2月29日(木)発行

学校教育目標

「温かい学校 感動あふれる学校」

さいたま市立上大久保中学校

〒338-0824 さいたま市桜区上大久保861-1 TEL.855-3901

<http://kamiokubo-j@saitama-city.ed.jp>

### 「卒業・進級に向けて」

たかく まさゆき  
校長 高久 正行

明日から3月になります。日本では旧暦3月を「弥生」と呼ばれ、現在でも3月の異称として親しまれています。弥生の由来を調べてみると、「暖かな陽気にすべての草木がいよいよ茂るという意味の『弥生(いやおい)』がつまって、『弥生(やよい)』になったとされています。『弥』にはいよいよ、ますますという意味があり、『生』は草木が芽吹くことを表しています。」との説明がありました。また、旧暦の3月は現在の4月頃にあたることから、桜をはじめ花が咲く季節なので、「桜月」「花見月」「花月」「花咲月」という異称が生まれたとも書かれていました。このことから、昔から人々は、春を待ち望んでいたのだと感じられます。

学校もいよいよ令和5年度の締めくくりの月となり、15日(金)には卒業式、26日(火)には修了式を迎えることとなります。特に、卒業式については、4年ぶりに全校生徒の参加、地域の皆様を来賓としてご参列いただく予定になっています。3年生にとっての門出の日を、多くの人たちで祝福したいと思っています。また、1・2年生についても4月からの進級に向け、今年1年のまとめをしっかりと行い、夢や希望をもって学校生活を送れるようにしていきたいと考えています。

さて、「不易と流行」という言葉をご存じでしょうか。この「不易と流行」は、学校等の教育現場でもよく使われる言葉となっていますが、よく「温故知新」という言葉の意味と混同されることがあります。その違いを以下に紹介します。

「不易と流行」…いつまでも変わらないものの中に新しい変化を取り入れることを指す言葉です。また、新しさを求めて変化をすること自体が、世の常であるということも指します。元々は松尾芭蕉が示した俳諧の理念で、いつまでも変わらないことを指す「不易」と、時代に応じて変化することを示す「流行」という相反する概念がひとつになった言葉です。

「温故知新」…古い教えから新しい知識を学ぶことを意味する言葉です。元々は中国古代の『論語』の中に記載されていた言葉で、書き下し文では「故きを温ねて新しきを知る(ふるきをたずねてあたらしきをする)」と読みます。

「不易と流行」も「温故知新」もどちらも古いものを大切にするという精神は同じです。しかし、新しいものを発見するために古いものを大切に「温故知新」と、古いものを大切にしつつ新しいものを外から取り入れる「不易流行」とでは、新しいものを取り入れる方法や場所が異なります。また「温故知新」は新しいものよりは古いものを重視していますが、「不易流行」は新しいもののほうに注力している点も異なるといえるでしょう。

「<https://domani.shogakukan.co.jp/>」より引用

現代は、変化が激しく予測困難な時代と呼ばれることがあります。そのような社会の変化に対応していく人材を育成するとともに、予測できない未来に向けて自らが社会を創り出していく「持続可能な社会の創り手」の実現に向けた教育の役割はますます大きくなっているところです。しかしながら、新型コロナウイルス感染症が流行したこの3年余りの期間、学校現場では、様々な制約や制限がある中でもどのようにすれば学校行事が開催できるだろうか、どのようにしたら生徒たちが主体的に活動できるだろうかなど、多くのアイデアや意見を出しながら討議を重ね、チャレンジしてきました。また、生徒1人1台端末の導入による指導方法の変化など、まさに「不易と流行」の精神で乗り切ってきたと思っています。

卒業や進級を経て、生徒たちはまた新たな次のステージに歩みを進めることとなりますが、生徒自身が、これまで引き継がれてきた経験や教えを活かしながら、知恵を出し合い、仲間と協力して、今の時代にしっかりと根を張ってたくましく生活していけることを願っています。

保護者並びに地域の皆様には、日頃から本校生徒の様子を温かく見守っていただき感謝申し上げます。来年度も引き続き、本校の教育活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

上大久保中学校の『あいうえお』



能登半島地震募金の報告



### 上大久保中学校の『あいうえお』

2月15日の朝礼の際に、生徒会本部から、上大久保中学校の特色の発表がありました。「上大久保中学校の『あいうえお』」としてまとめ、

「あ」…あいさつができる 「い」…生き生きとした 「う」…うらかな

「え」…笑顔で一生涯懸命学び合う 「お」…思いやりの心で助け合う

の5つを挙げてくれました。この特色を今後も継続していけるよう、生徒会本部や各委員会を中心に様々なキャンペーン等を行っていく予定です。生徒の皆さんの活躍を期待しています。

また、1月に実施した「能登半島地震募金」について、募金総額106,457円を支援金として2月5日に日本財団に振り込みを行いましたとの報告がありました。募金活動に際し、多くの皆様にご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。